

広報 しんやま

第 52 号

発行所 黒埼町役場
印刷所 共立印刷機

〈町の動き〉

1月末現在	(前月比)
人口	18,102 (+17)
男	8,881 (+5)
女	9,221 (+12)
世帯数	4,276 (+10)
48年12月1日～末日まで	
死亡	13
出生	32
婚姻	39

淡水魚を海水飼育に成功

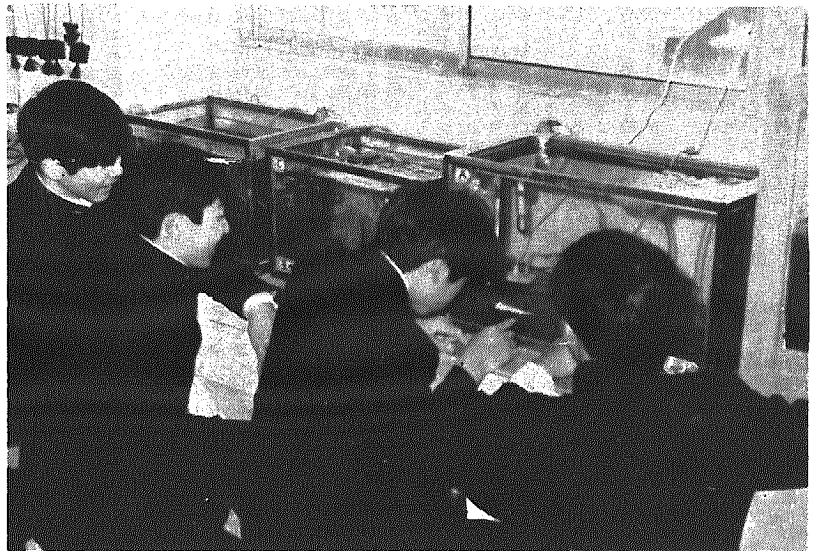
つぎは鯉や鮒の実験も

黒埼中学校(松崎新作校長)の科学クラブで熱帯に住む淡水魚グッピーを海水で飼育する実験に成功、これを行なったのは坂井民人子内藤龍太郎、小林正己、中川雅史君の四人で毎日放課後も理科室で理科主任の佐山先生の指導を得、水温の点検、魚の動き、成長の進みなどを調べ、日誌につけ熱心に研究を続けている。

同クラブは、昨年十一月(第五十号)でお知らせしたとおり、イトヨのウロコの研究で県教育委員会優秀賞を受賞し、今回の研究はイトヨが海から川へ上って来ることに興味をいだき、川の魚が長い間海に住めないものと、グッピーをイトヨの予備実験として行ったもので、グッピーは、卵胎生メダカの一つで南アメリカ北部、東北部、小アンチル列島に分布し、六種類いるといわれ、熱帯魚特有の非常に美しい体色をし、比較的低抗力のある魚類であることに着

眼、水槽四個を用意して、一個は淡水、一個は人工海水、一個を自然海水、一個を人工海水を作る水槽とに分け、海水を作るに必要な薬品を四十等分して、毎日少量ずつ、オス、メス数匹の入っている水槽に加えていき四十分の三十三位になった所で、一月九日人工海水の水槽に移した処、そのまま元気で泳ぎまわり、海水にもすつかり慣れて、今では海水中にこどもを産み、その稚魚も元気に育っている。そのほかいろいろの実験を行っている、海水に慣れていたグッピーを直接淡水に移した場合九〇、一〇〇時間死に、反対に淡水から直接海水に移した場合はすぐ死ぬという実験結果が得られた。部員は人工海水では成功したが、自然海水の場合はどうかと疑問をもち寒いにもかかわらず、五十嵐浜から海水をもってきて、水温二十五度位にして、オス・メスと稚魚二匹を入れたが元気に泳ぎまわ

り更に自信を得た。しかし、最近(一月三十日)生後間もない稚魚を淡水から直接海水の水槽に移してみたところ、現在も元気に育っており以前の試験結果が大きく覆された。これは生後一週間以内に種々の環境に適應する、強い形態、体形が構成されるものでないから理科主任の佐山先生は語っており、A・B・C・Dの四つの水



毎日研究に余念のないクラブ員

槽には色あざやかなグッピー七〇匹程が泳いでいる、この卵胎生の淡水魚を海水に適應されることに成功した例はあまりないこととして関係者から注目されており、今後は実験を拡大していき、鯉や鮒などについても行ってみたいといっており、漁業開拓にも影響を与えるものと関心が寄せられている。

り更に自信を得た。しかし、最近(一月三十日)生後間もない稚魚を淡水から直接海水の水槽に移してみたところ、現在も元気に育っており以前の試験結果が大きく覆された。これは生後一週間以内に種々の環境に適應する、強い形態、体形が構成されるものでないから理科主任の佐山先生は語っており、A・B・C・Dの四つの水

熱帯魚のグッピー

漁業開拓に 新しいページか?